

平成28年度第2回留学生スタディツアー ダイジェストレポート

平成29年1月14日（土）

年明け最強の寒波に襲われ、ツアーの出だしは大雪の中での集合からでした。なんとか参加者全員の無事を確認し、向かったのは JA ふくしま未来伊達支店、「んめ〜べ」です。ここでは、地元の野菜や果物を中心に、安全・安心をモットーに美味しくて買いやすい値段のものを直売所で提供しています。その「安全・安心」の根拠である、生産物の放射性物質検査の手順を副店長に解説していただき、実際にどのような機械で検査するのかを見学しました。福島での検査の基準となる値は世界のどこの国よりも厳しく、なおかつ市場に出回る前にすべて検査するという徹底ぶりに参加者のみなさんは大変驚いた様子でしたが、県の食の安全への取組姿勢について深く理解していただいた様子でした。その後は直売所であんぽ柿の試食に舌鼓を打ったり、新鮮な野菜や果物の買い物を楽しみました。



【副店長の説明に耳を傾ける参加者】



【あんぽ柿に舌鼓を打つ参加者】

続いて向かったのは相馬市にある昼食会場の「報徳庵」です。一見仮設住宅のプレハブ造りの外観に「20人もの団体が入れるかな？」とげげんな顔でバスから降りる参加者もいましたが、中に入って皆びっくり。そこにはモダンな、そしてあたたかい木造りの明るくて広々とした空間が広がっていたのでした。「ここは、震災時被害の大きかった相馬市の復興拠点として、ボランティアの方々がたくさん集まってくれるんですよ。」とお店の方から教えていただきました。「報徳庵」と言う少し変わったお店の名前の由来も教えていただきましたが、これはせっかくですからぜひ実際にお店に行って聞いてみてください！ここでは、大きな魚のフライと（あまりにも大きくて一瞬何のフライだかわからなかったくらいです）美味しいエビフライカレーをいただきました。



【仮設の外観ですが、中には・・・！】



【絶品エビフライカレー】

一行はバスに乗り込み、南相馬へバスで南下します。道中自己紹介をしながら少しずつみんなが打ち解けていきました。南相馬ではボランティアガイドの方にバスに同乗していただき、小高区を中心に震災で被災した現場や、その復興の足跡、地元の神社などを解説していただきながら巡りました。6年という歳月は、被災した直後からの景色とは違うものにはしていますが、そこには被災したという圧倒的なリアリティが迫ってきます。参加者のみなさんは、ガイドの方の説明に耳を傾けながら、当時被災された方々へ思いをはせていました。また、復興のシンボルとして地元女性会が立ち上げた「ひまわりカフェ」でお話を聞くこともできました。「いつか小高にみんな戻ってきてほしい。」笑顔で明るく語ってくれたカフェのお母さんたちに、帰り際参加者のみなさんはバスからいつまでも手を振っていました。



【間近まで津波が迫ったという丘陵地】



【小高の復興を願うひまわりカフェ】

初日の行程が終わり、一行はいわき湯本温泉にある旅館「古滝屋」に向かいました。ここは1000年もの歴史ある湯本温泉の源泉をひく、由緒ある旅館です。参加者の中には「浴衣が初めて！」「温泉に入るのが初めて！」という方も多くいて、みな日本の文化に触れ大満足の様子でした。

平成29年1月15日（日）

二日目の朝は、「アクアマリンふくしま」にて震災復興プログラムを受講しました。震災時、アクアマリンふくしまの館内での様子がどうだったか、そこからいかにして4ヵ月という驚異的なスピードで再建し、オープンにいたったかという過程を研修室で伺いました。参加者のみなさんは、当時の被災状況に心を痛めながらも、再建に向けて一致団結したスタッフのチームワークに感動していました。その後館内をめぐり、豊富な海洋生物を見学して充実した時間を過ごしていました。



【復興プログラムに耳を傾ける参加者】



【入館前に記念撮影】

その後一行は昼食会場の「ガーデンレストラン SARARA」へ向かいますが、なんと道中大雪に見舞われます。バスはサービスエリアで急停車し、安全のため運転士さんがタイヤにチェーンを付けてくださいました。雪の中一生懸命作業されていた姿に、みんな「運転士さんありがとうございます。」と声をかけていた姿が印象的です。

昼食会場では、地場産の新鮮な野菜がふんだんに使われたビュッフェ形式の料理にみな目を奪われていました。美味しさは折り紙つきですし、それに加えて自分で選べるミニ鍋も楽しむことができ、参加者のみなさんはおなか一杯福島の味と食文化を堪能したようでした。



【取り皿いっぱいにお鍋の具が・・・！】



【この班は最後の片づけもきれいでした】

おなか一杯の一行が向かったのは、三春町にある「福島県環境創造センター」です。ここでは震災時から今に至るまでの様子や取り組みなどがすべて資料として記録されています。留学生である参加者のみなさんは、これまでに誰しもが必ず福島に来ることに一抹の不安を覚えたり、家族や友人に善意から心配をされた経験を持っています。しかしここでは、そのような心配ごとに対して動画やシアターで視覚的にも聴覚的にも非常に明確にわかりやすく答えてくれました。

また、グループごとに分かれて食品に含まれている放射性濃度を測り、普段目にしたり口にしたりする物にも放射線は含まれており、放射線をすべて怖がることはないのだと改めて確認することができました。



【原発の模型を見ながら解説を聞きます】



【自分たちで放射性濃度を測ります】

二日間のツアーを終え、参加者の皆さんの顔には充実感と、別れを惜しむ寂しさが浮かんでいました。今回のツアーを通し、留学生のみなさんが福島の実状や魅力を知って、それを一人でも多くの方に伝えていただけたらと思います。最後になりましたが、ツアー実施に当たりご協力くださいました関係機関の皆様に深く感謝の気持ちを申し上げます。